

夏秋ギク型スプレーギクの電照効果

(園試 南部分場)

1. 背景とねらい

本県では、りんどうに次ぐ花きの主要品目の一つとして、スプレーギクの産地化を推進しているが、導入されて間もないことなどからデータの蓄積が少ない。

特に、7～9月咲きの夏秋ギク型スプレーギクの品種はフォーメーションが乱れ易く、生産も不安定であることから、その高品質生産技術の確立が望まれている。

そこで、夏秋ギク型スプレーギクの品質向上を目的に定植後の電照について検討したところ、一応の成果が得られたので参考に供する。

2. 技術の内容

夏秋ギク型品種では、定植後に一定期間電照（長日処理：22時～2時までの暗期中断）することにより、花房形が向上する。

また、電照栽培は開花期が7月咲、8月咲、9月咲タイプで、それぞれ、2週間、10日、5日程度遅れ、全体として切花長が確保されることから、切花品質の向上にも有効である。

適応地域および適応作型 県下全域の施設栽培

3. 指導上の留意事項

電照の方法と期間

3×3mに75Wの花き用白熱灯1個の割合でセットする。

光源から生長点までの距離を1.5m以内とし、50lux以上に保つ。

電照期間は定植から側枝長が20～25cmになる時期までとする。

品種によっては、電照の効果が出にくいものもあるので注意する。

電照に要する経費はアール当たり設置費で3万円程度である。

4. 試験成績概要

表1 切花品質と花房形別割合

品 種	電 照	年 次	切花長 (cm)	花房形	花房形別割合 (%)					良花率 (%)
					5	4	3	2	1	
アル	無	4	70.7	2.5	0.0	3.9	57.7	19.2	19.2	59.3
ン	〃	5	88.1	2.5	0.0	0.0	41.2	35.3	23.5	65.0
コ	有	4	87.4	2.9	0.0	20.8	54.2	16.7	8.3	91.7
丨	〃	5	-*	3.8	8.3	58.3	25.0	0.0	8.3	-*
ハス	無	4	113.6	2.4	0.0	0.0	60.0	33.3	6.7	40.7
イタ	〃	5	123.9	2.9	0.0	22.7	34.1	27.3	15.9	84.1
クル	有	4	108.6	4.3	3.7	40.7	51.9	3.7	0.0	100.0
り		5	123.0	3.2	0.0	34.0	49.0	13.2	3.8	96.2

注) 花房形: 「花房形評価基準」に基づいて算出したもので、数字が大きいものほど良品

良花率: 切花長70cm以上、花数7以上、花房形2以上で販売可能な切花の比率

* 印: 摘心ミスにより調査不能

表2 夏秋タイプ別品種と電照効果

タ イ プ	品 種	定植 月日	季咲栽培			電照効果		
			開花 月日	切花長 (cm)	花房形	開花抑制 日数 (日)	切花長確保 (cm)	花房形 向上
7月咲	6	4/6	7/13	73.9	3.7	11.2	22.5	0.6
〃	7	4/28	7/24	80.4	2.9	12.6	23.2	0.5
8月咲	11	5/10	8/9	100.1	3.0	8.5	24.8	1.3
〃	6	5/25	8/18	94.5	3.8	11.5	15.7	0.9
9月咲	4	6/3	8/29	96.3	3.6	5.8	14.8	1.0
〃	2	6/12	9/12	99.2	3.7	3.0	6.3	0.6
計・平均	36	-	-	90.2	3.3	9.6	20.3	0.9

注) 県立花きセンター資料